令和４年度　第３回　学校運営協議会

令和５年３月１０日（金）評価部会　15：30～16：40
学校運営校議会　16：40～16：15

神奈川県立旭高等学校　会議室

会長：渡邊　道子（産業能率大学）
委員：市川慎二（希望ヶ丘幼稚園長）、　北瀬淳子（川井地域ケアプラザ所長）
校長：広瀬　邦彦　教頭：桐谷　鋼哉
職員：五反田 淳（管理Ｇ）、田中　成美（教務Ｇ）、金澤　佳子（生徒Ｇ）
　　久野　真輝（生活Ｇ）、佐々木 悦郎（進路Ｇ）、渡邊　健（広報Ｇ）

1.　開会挨拶
・先の卒業生、４８期の動画上映。
・資料確認
2.　会長挨拶
・学校に日常が戻りつつあることを感じる。
・旭高校が４８期目であることにも驚かされた。
3.　広瀬校長挨拶
・本来 11 月にあるはずが、副校長の脳出血のため見送ったので、ここでまとめとしたい。
・卒業式は保護者に制限を加えずに実施した。この代の子達は入学当初から我慢の連続だったが、最後は無事に卒業できた。
・今後もさまざまな行事を復活させ、学校運営をしていきたい。
４．評価部会
教頭（桐谷）
まずは、グループリーダのほうから期末評価について説明をさせていただきます。そのあと委員の皆様からご意見をいただきます。では、まず一番の教育課程学習指導について、教務グループの田中から。
教務（田中）
目標は資料をご覧いただきまして、教務グループの達成状況ですが、カリキュラムマネジメントの視点から教育課程編成の分析検討を行った①の部分と授業改善のテーマ学び続ける人というように設定をして授業改善を行ったということが達成状況でございます。具体的には資料としてついております生徒による授業評価と合わせてお話しさせていただきます。

①については今年度から新しいカリキュラムが施行されまして、昨年度の入学生までと大きく形が変わっております。その中で、我々も生徒も進路活動をどのように継続して力を入れていくのかというところで一番いい形でできるのはどういうケースなのかというのをちょっと検討させていただきました。新しい部分で出てきた課題等もありますので、これから 3 年間見通しを立てながら、この運用については継続的に検討を進めていきたいと考えています。2 点目ですが、学び続ける人の資質向上のためにということで、学校のグランドデザインにある学び続ける人というところに、今年度は注目をしまして、授業改善を行いました。

学び続ける人という抽象的な概念をまず皆さんで共有して擦り合わせる必要があるということでアンケートを活用しまして、学び続ける者とどういう人のことなんだろうというようなことで、例えば継続的に勉強できる人であったり、自分で勉強できる人学びが楽しいと思える人、そのような部分で共通のところを探し出しながら授業改善に取り組ませていただきました。また、ICT の活用についてもタブレットを一人一台端末ということで、今年度から入っておりますので、どのような活用ができるのかということで検討させていただきました。その具体的な結果がこの授業評価ということでありますが、授業改善を行う前の 1 学期と比べて、4 番 3 番とかなり当てはまるほぼ当てはまるというところがアンケートに答えて人数も使うので、微増だったり微減だったりするんですが、Q3 以降の回答で 2 番と 1 番をあまりうまくはまらない。ほとんどが当てはまらないの生徒がかなり数が減っているということで、僕らほぼ授業改善を例えばひと月してすぐに変わるっていうのを難しいとは思っているんですけれども、生徒たちの中でこれはやっているんだなという実感も気分がちゃんと出てきているので、この形を継続して 4 番 3 番の数字が 2 年後、あるいは 1 年後にはどんどん増えていくような授業改善について、これからも取り組んでいきたいと思っておりますし、ICT のさらなる活用によって授業だけでなく、どのようなものがどのような場面で使えるのかというところについても検討していきたいと思っております。以上です。

会長：渡邊

学び続ける人のアンケートの結果はどういう回答が多かったのかと気になりました。

回答（田中）

そうですね生涯にわたりの勉強が続けられるというところが形式としては一番多かったんですが、そのアプローチとして問題以外の答えがあるものに対して答えを出すのではなくて、問題解決ができるような力が育っていれば学び続けられるだろうというような回答をされている先生とそもそも今学ぶことが楽しいから続けるっていうところと、アプローチは違うんですが、やっぱり今の学習が大事だとか楽しいだとか

このままやっていきたいというそういう気持ちの部分にフォーカスを当てて学び続け

る人を育てたいというような考え方の先生方が旭高校には多くて、そういうようなアプローチをしたら生徒の方もついてきてみるかというようなことではないかなと分析しております。

会長：渡邊

すごく言葉の定義みたいなを擦り合わせるってすごく大事でとても良い取り組みだなと思いました。

質問（市川）

生徒にはアンケートとってないんですか？

回答（田中）

数字の部分は誰にとってあってかつ教員に対してのコメントもあるんですか。僕は授業がとてもわかりやすいです、とか楽しいですといったコメントが多いです。具体的にこういう授業をしてくださいとか、こういう形で学びたいですというところまではちょっとまだ出てきていないんですが、全員が書いてくださいというわけではないんですが、コメントを書いてくださる生徒のほとんどが好意的なコメントをいただいております。

市川：このアンケートで「あてはまらない」が、あまりなくなったというふうに思っていて、自分たちで授業を作り上げていくというようなイメージがすごくいいなと聞かせていただきまして。

校長：補足の説明としては、今年の 1 年生から探究プログラム、産業能率大学さんのプログラムをちょっと利用させていただいて、総合的な探究的の時間というのは週 1 時間そこにまず探究プログラムというのを子供たちにやらせたんですね。その結果、ここ 3 年間の積み上げの中で探究的な学びっていうのは、総合的な探究的の時間だけじゃなくて、いろんな教科の教科横断型の例えば国語でありながらも、数学の論理的な思考を足しながら、いろいろなプレゼンをやるのもそうだし、文章をまとめるのもそうかもしれないし、そういう表現力を身につけるとか、そういうものにつなげていくための基礎ベースの授業に 1 年生の時に今、今年 1 年やらせていただいたので、それを積み上げていって最終的に 3 年で卒業するぐらいになると、本当に主体的に、それでは、自分の得意分野を生かしながらこういうところを学んでいこうというふうになっていけばいいなというのが今現状としてありますので、そういう取り組みをしているということをご報告させていただきました。

教頭（桐谷）

次は、生徒指導と生徒支援ということで、一番のテーマについては、生活指導グループの久野から、２番のテーマについては生徒支援グループの金澤から報告をいたします。お願いします。

生活指導（久野）

生活指導を担当しております久野と申します。町田の方が不在なので、代理で参りました。よろしくお願いします。1 年間の目標としては挨拶ができる望ましい生活習慣を身につけているということを目標に活動を展開をしていきますが、達成状況といたしましては自発的な挨拶をする生徒というのが 7 割には届かなかったというところなんですが、部活動等中心に挨拶をすることを指導していただき、そこから学校内に少しずつではあるのですが、ひろまりつつあるというところです。

遅刻指導についても継続して指導しているところではあるんですが、特定の生徒が少し回数を重ねて指導になってしまうケースが多々見受けられるようになっているというのが現状です。いずれもアンケート等で結果を学期ごとにとるようにしていて、現状把握しやすいように情報していくという状況です。

課題といたしましては挨拶については引き続き、本当に誰もが挨拶を自分からできるようにしていくということは目標になっていますので、継続して指導していきたいなというふうに思っているのと同時に、もちろん、その指導をするだけではなくて、お互いに挨拶ができやすい環境とか雰囲気を作り出していければいいかなというふうに思っています。

遅刻に関しては、現在、担任の先生を中心に生活指導担当者と指導をしているんですが、関わっている生徒と関わっている人数が少し少ないように思えるので、もうちょっと職員全体で指導できるような体制をつくっていって、本当に生活をしっかりとした生活習慣を身につけられるように指導できていければいいかなというふうに思っていますので、来年度以降、継続してやっていきたい。

生徒支援（金澤）

生徒支援グループの金澤と申します。よろしくお願いします。生徒支援グループでは学校行事の方を主に担当させていただいて、今のビデオでもあったように、特にこの都筑祭ついては生徒が本当に主体となって、この 2 年間、とにかく子供たちと話をする中で友達を呼びたいというのが、子供たちの一番の願いであって、それを実現するためにはどうすればいいかということで、何度も話し合いを重ねて存在するという新たな形で、それを実施することによって、子供たちが出したアイデアを自分たちで実現できたとすれば、そこの子供たちにとってはとても良かったなと思いました。また、その後の

２ 学期の球技大会についてもまだコロナ禍であったんですが、子供たちからどうやって感染対策をしたら全学年合同でできるかというのをやるというのを、子供たちがいろいろなアイデアを出し合いながら考えて３学年で合同で開催できたのはとても良かったなと思いました。課題等につきましては、次年度から今度は逆にコロナに対する扱いがかわりますよね。その中で、普通の時の行事なんかも私も来たばかりで分からないんですけど、生徒なんか本当に（普通の行事が）わからなくて、逆に（いままでの生活スタイルに）戻さなきゃいけないでどうやってもどしていくのかな。ただ、「はい、じゃあ、これが（感染症法上）２類（相当）から５類になったから、ずぐに戻しますよ」ってわけには、やっぱり学校上いかなくて、徐々に戻すという段階でどういう形で戻すかってのは、やっぱり子供達だけでは難しいのかなと思うところで、我々教員なども支援しながら、より子供達が満足できるようなそういう形で戻していければいいなと思いながら、来年度はそこから逆にコロナ禍でないところ、どうやって元に戻してってとこがすごく課題になるのかなと思っています。以上です

教頭（桐谷）

質問ご意見がありましたら、お願いします。

・都筑祭は話し合いを重ねて、来場者を招待制とすることで達成感が得られた。球技大会も３学年合同で実施できた。
・コロナ禍が回復してくるところで、今後どのように行事を展開するかが課題。

質問（北瀬）

３点程ご質問させていただきたいのが部活動で挨拶をする生徒７割頃からだったが挨拶の文化は部活動の生徒を中心にっていうことだったんですけど、部活動って何パーセントくらい部活に入ってらっしゃる生徒がいるのかなっていうのは、殆どの生徒が部活動に入ってるのか、それとも２割くらいの方が部活動に入ってるとか、何かイメージが湧かなかったもので、すいません。あと結構生徒主体にシフトして色んなことがシフトされてというのを感じていて、今日ケアプラザの活動の時も生徒を考えて行動してしまうとか、指導主導としてこちらまで見守るみたいで、ちょっと困った時に手を出すっていう感じの学校での生徒の皆さんの活動なのかなっていうのをすごく感じることが多々ありました。いろんな場面で。

それとあと、コロナの方でうちもどうやって戻していくか。分かんないですね。600人、７００人、1000 人の方が（コロナ前に）来てたケアプラザの運営の状態をどうやって（もどすのか）。（学校の状況と）同じですね。13 日からマスクの着用が、デイサービスとケアプラザで全く運営が違うんですね。学校の授業と部活動とか場面、場面でどうなっていかれますか。いい案があれば教えていただきたいです。

生徒支援（金澤）

一番の質問について、部活動の加入率については、今年、（部活動加入率の資料を）もらったんですけど、たしか半分・・50%切っている。ちょっと変わってきてるなって、私も（この学校に）きて、本当にほぼ全員が部活動入っているなと思ったらあと 50%いないんだなというのをすごく記憶しているので、そのくらいです。

２番については、本当におっしゃる通り、生徒なんかでこっちがもうちょっと何か色々案を出してちょっとそっちに流していかなきゃいけないのかなと思ったら、生徒自身が実は招待制のことについては、ちょっと事前に他の学校の調査していたのですが、そんな（資料を）出さなくても自分達から言ってました。そんなの逆に、これは凄いなと思います。

コロナの件は、でも、やっぱり国からでやっぱそういう個人の考える我慢の中で、我々は板挟みで、その中の一つで難しいですね。

校長

まとめとしてはまだ４月１日から県の新たな方針が出るということで、国からは出ているけれども、学校としては現状維持だから授業中はマスクしたままなんですね。でも部活とかは外しているケースが多い。卒業式は子供達には外していいですよって壇上に上がるかたはみんなマスク外していい状態にしました。入学式は同じように、やっぱり個人の判断に任せるけど、中学校の先生とやりとりしている中で簡単なことを言うと、中学３年間ずっとマスクしていたわけで。やはり子供たちは何か変わるタイミングが欲しい。だから、とくに女の子なんかは外さない子も多かった。卒業式が多かったんですけれども。でも中学生ぐらいの子達は逆にいうと高校入学から外して要するにデビュー、言い方はおかしいけれどそういう風にきっかけとして、考えているんだということが多いという話を、この間、中学の先生と話をしてきて聞きました。だから、どこかの何かのきっかけで、やっぱりそういう風に何か変えていこうという流れは出てくるのかな。やっぱりお年寄りもいらっしゃるそういう状況が学校とはちょっと違うのかなと思いながら、ただやはりですね。

教員がまだマスクを維持しながら、子供たちが外してくるみたいな。そんな図柄を学校の中では想像されるのかなと思いながら考えてます。参考にならないですけど。大学はどうなんですか。

会長：渡邊

大学は・・うちは結構堅い。

とりあえず集団の時はしてきましょう、というような傾向があるかなというのはあります。ですから、みんななんか外さない方ほうが楽だといっている子が多いので、強制的には外さないです。

教頭　桐谷

では続いて進路指導支援についての佐々木の方からもお伝えします。

進路（佐々木）

目標に対しては、そこに書いてある通りに達成状況ですけれども、一番上で家庭学習の時間というのはなかなか伸びていかないなということです。先程の部活動の加入率が下がってきているという話があるんですけれども、では加入しないで勉強している方とそうではないというところで、ちょっと頭が痛いですね。

ただ、３年でやっぱり一般受験等を目指して頑張っている生徒に関しては、それなりに学習時間が確保されていていたというところは感じています。２年生はやってないんですけれども、１年生、３年生はスタディサプリを現在活用しております。ただ、その活用状況のデータを見てみると、やはり使っている生徒とそうではない生徒がいるようなということで、やはりそこテコ入れしていかないとなかなか家庭学習の時間が取れていかないんじゃないかなというふうに思っています。

その意味でも最初にありましたように、勉強が楽しい、学ぶことが楽しい、というような感覚とか、それから、自分にはこれが必要だからやっていくというところを、もっと強く作っていかないといけないのかなという風に考えております。特に３年が中心ですけど、進路の目標を実現できたかというところなんですけれども、具体的にはちょうど今年度の進路状況というところでお話をさせていただきますけれども、比較的一般受験の方で頑張っている生徒もいたということで、ある程度結果を出していくという風に思っております。ただ、やっぱり全般、推薦とか総合型選抜というということで、生徒が多いということで。どちらかというと、まだまだ行きたいところよりも行けるところという風な動きが全体として見られているかなという気がしております。その辺のことを考えて、キャンパスツアー２年生ツアーということで今年度実施いたしました。そこで、こちらも結果というのが、もう少し意識がかわるのかなという期待を持っていたんですけども、実は行った先が神奈川県内に限られてしまっていて、生徒自身がオープンキャンパス等でもうそこの学校、知ってるよというような感覚で、残念ながら当日欠席が多く出てしまって、うまくいったとはちょっと言い難いかなという状況です。今回（４月以降）コロナの方（分類）が色々扱いが変わるので、来年度に関しては都内の大学も含めて色々見て回れるような形を取りたいなという風に考えています。実際、私自身は看護系の方に一緒についていたんですけれども、生徒は非常に興味をもって取り組んで、説明を聞いたりとか、実際に、実習もどきなんですけれども、そういうのをやっていったりというところで、関心は高めることが出来たかなと思っています。

質問（渡邉会長）

専門学校はどの分野にいかれている人が多いのか。

回答（佐々木）

特徴として医療、看護に進みたい子が多いです。

教頭（桐谷）

広報Ｇの渡邊からご報告いたします。

広報（渡邉）

広報Ｇの渡邊です。よろしくお願いいたします。まず１年の目標で、①学校運営協議会等の充実を図り、地域との連携など地域の力を学校運営に生かすということで、目標を立てさせていただいております、達成状況につきましては、学校協議会等の取り組みが推進できるように取り組んだということと後は旭アワードによる表彰を行ったということです。

今年３年生を担当させていただいていまして、暗いニュースが多い中、旭アワードでモニターをつかって生徒に表彰する姿というところを見せることができまして、非常に明るい話題を生徒に提供できたというところを感じています。また、人命救助などで活躍した生徒にスポットライトをあてて、生徒が主体というか、主役が生徒というようなところが、やはり伝えられたかなと感じています。

で課題等についてですけれども、旭アワードなどそういったところのそこでやるだけではなくて、ちょっと１月の部分でやったところからですが、もうちょっとホームページ等でこう発信していくっていうところとかですね。そういったところがちょっと気が回らなくって、是非もっとこうその場で終わらせるのではなくて、ちょっとこう発信していく必要があるという風に感じますので、こちらが次年度に向けての課題になります。続けて②番、１年間の目標は地域連携部会との連携をして生徒を育てていく取り組みを推進するということで、達成状況につきましては、まず５月に行なわれた地域連携部会のところで、生徒会の生徒が実際に参加をしてくれました。そこに教員も立ち会ったんですけれども、生徒が非常に積極的に話をしていて、殆ど、教員が話すことなくやりとりをしておりましたので、これはもう生徒にとってもかなり良い活動だったのかなというふうに感じております。

また、以前からやっているあさひだよりですね。こちらも地域の方に定期的に今年度も発信をしていきました。またボランティア生徒ですね。今年度は学習サロンの方でもケアプラザさんにお世話になっています。参議院選挙の会場のボランティアなどそういったところへの参加また他には非行防止教室など、コロナで制限されていた中ですけ

れども、そういうボランティアということで地域との交流が行えたいというところです。課題改善方策についてですけれども、先程旭アワードと同じようにこういった取り組みをもっともっと発信していかないといけないなという風に思っておりますので、そういったところをホームページ中心になると思うんですけども、そういったところでできたら良かったなという風に思っております。また、昨年度の運営協議会の報告だったと思うんですが、ICT 機器などを活用して交流とかあるんじゃないかということがまた課題となってくるので、うまく取り入れてそういった活動というのを地域と繋げるようにしていきたいというふうに考えております。以上です。

質問（会長）

同窓会ではやっているが、学校でフェイスブックやツイッターでの学校の発信は可能だろうか？

回答（校長）

学校ではいろいろと課題があるので、今後検討します。

北瀬：

デイサービスの方に、吹奏楽の生徒が来ていただいて演奏してくださったりとか、本当に色んなところで交流を持たせていただく機会が増えたなと。こちらの方こそ感謝しています。先ほどお話ししたように生徒が主体性をもって、養護学校との連携で・・・ビリーブとの連携でクリスマスツリーをですね、要望の生徒が作ったんですけれども。それに関しての高校生がボランティアで入ってくださるんですけど、全然臆することなく普通に支援をされていて、できるところはまかせているし、もうちょっと生徒に事前に言わないと駄目なのかなと思ったんですけど、全然見守っているだけで、本当に先ほどお話ししていたスポットスポットライトの生徒であって、生徒が主役って本当にそのものだなっていうので、何かこう発信していただいて、それを真似る。小さな活動が大きくなっていくように、是非是非色んなところで生徒さんが主役でスポットライトがみんなに当たっているといいなと思っていております、以上です。

校長

ビリーブって三ツ境養護学校と交流をやっているんだけど、実は最初の第１回には私、まだ旭高校に（教員として）いったんですけれども、こんなに来たらおんなじ感覚で大丈夫かな？というふうに思ったんですけど、実は子供達は中学時代同級生なんです。小学校中学校で同級生だから、簡単なことを言えば、中学でそういう子達と一緒に関わって色々生活をしているから、高校になってみんな進路がバラバラでセパレートになっちゃっているけど、実は僕が一番最初に三ツ境養護にいってフットサルとサッカーを

やったんです。その時に「何とか久しぶり」とかいってハイタッチしている内のサッカー部の子とその三ツ境養護の子がいて「そうなんですよ、同級生同じクラスなんですよ」、みたいな話で。だから大人が考えるより子供達の方が柔軟というか、適応能力が高いというのは、基本的に（校長自身が）学んだことなんですよね。多分そういう感覚なんじゃないのかなと思うところはあります。

学校管理（五反田）

管理運営グループの五反田です。よろしくお願いします。１番についてですけれども、wi-fi についてはほぼ完全に設置ということで、通信環境は整っております。それから、周辺事業の方を含めて各モニターの方も設置が終了しましたので、この後はそれぞれの各授業と行事等々で活用を進めていって欲しいなというところです。ものは入れたんですけど、どうしてもやっぱり故障とかその辺が出てきますので、もう既に１台２台が調子悪い状況で、モニターの液晶がやっぱり衝撃があったりすると駄目だということで、その辺でこういう予算立てというものを考えながら、新しいものとの入れ替えとかを含めて予算建てしていかなければいけないかなというところがあります。
それから、防災の方については、今年度は全体での防災訓練が雨天のためできなかったので、代替で昨年度と同様に各ホームルーム教室でモニターを使って動画を見せたり、アンケートという風な形を取らせていただきました。いつ地震がおきてもおかしくない状況ですので、何かというニュースによると、2030 年の５年前後に南海トラフが起きる可能性が高いという風に警鐘を鳴らしている専門家の先生もいらっしゃるようなので、その辺も含めて次年度も色々なシチュエーションを想定しながら、子供達の防災意識を高めていければなという風に思っております、以上です。

広報（渡邉）

よろしくお願いします。本校の魅力を適切かつ迅速に発信することができるかということで、達成状況につきましてはホームページこちらを今年度は見直しました。充実を図ってボリュームを増やしてきた状況です。また、部活動の生徒部長など、そういったところが月に一回程度定期的に活動と記録ということを追加するようにしていきました。課題としましては、本校の魅力を発信できるように、定期的に見直しているというところで、今年度はホームページのボリュームはアップはしたんですけれども、その整理とか先程漏れがあったように旭アワードや他のボランティア活動など、そういったところ特色、外のツールを使った発信等も含めて、今後も魅力ある発信につなげていきたいと思っております後、もう一つ生徒主体の学校説明会を実施というところで達成状況とさせていただきました。先ほどから何度もあるんですが。生徒会の子たちがですね。本当に積極的にかかわってくれまして、また他にもボランティアの方で手伝ってく

れたりというところで、本当に助けもらいました。説明会での説明というところも、生徒にお願いできることは極力お願いをして入試とか、そういったところはちょっと職員でしかできないところだと思いますけれども、原稿あるんですが、それをまず基本として（原稿を）読んでもらいつつ、プラスアルファで自分の感じたこととか、私は購買のパンが好きですとか、というような生の声を届けるというところで非常に肯定的な回答をいただきました。お陰様で年間を通して延べですけれども、2500 名を超える人数も中学生保護者というのが参加していただくことができました。また、課題等についてですけれども、第１回第２回の学校説明会のアンケートでは９割以上ですね。肯定的な回答が得ることができました。実際にその方の声でやはり多かったのが、やはり生徒がとても輝いて、自分も入学してそのようになりたいというようなところで生徒も広告塔というか、スポットライトがあたったと思います。まず、次年度に向けては、更にもっとそういった生徒の方の主体となる環境を増やしていければいい。以上になります。

教頭

では、学校評価報告書については以上になります。

佐々木

まだ集計が十分終わっていないので、速報ということで知らせています。とりあえず延べ合格者数という形になります。ご覧いただくと、やはり大学が 183 名ということで、それなりに成果が出てきているかなと思いますし、推薦、それから高校生自身に関してはほぼこれ以降で入学者数進学者数という形になるかと思います。そして、特に大学の主な進学先ということなんですけれども、特に今年は一般受験を頑張った生徒が多くて、そこをご覧いただけるという立命館（大学）、順天堂（大学）のそれから（表の）下の方に行きますと中央（大学）成蹊（大学）、成城大学を合格しているところで、例年ですと日東駒専、神奈川大学が多いんですけれども、今回というそういうところにも、生徒が合格を出してくれたかなと思っております。特に順天堂は看護ですので（注釈：看護学部は１次合格、国際教養学部に合格者がでている）、決して易しくはないところですので、かなり良い成果を挙げられたんじゃないかと思っています。これで例年に来る大学よりは色々な大学の合格が出てきますので、ちょっと来年度以降、少し生徒にもそれから新入生にもこういう話をしていって、色々意識を高めていきたいなと思っています。で、まず（佐々木の）前任校の例なんですけれども、やっぱりトップクラスの大学受かると翌年以降、志願者の数が増えて、それを期待してこの学校に行けばこういった大学に進学できるのではないかという期待を持ってくる生徒もいますので、

これからもちょっと期待をしてみたいなという風に密かに考えているところです。以上です。

教頭

はいでは評価部会の方はこれで終了させていただきます。
ありがとうございました。

３月１０日（金）学校運営協議会　16：25～16：30

校長挨拶

報告に基づくというか、先の説明で不十分だったところをちょっと若干説明させてください。本校は AGE28 プロジェクトといって 28 歳になった時に必要な資質能力を高校時代から学ぶような仕組みづくりをしようということで、もう何年ですかね。最初の３年ですね。私が(校長として）来る前から動いていまして、それがいろいろな形で少しずつ具現化していくような形になっています。今年はそのイングリッシュキャンプという国内留学で、福島のブリティッシュヒルズを去年から行かせてもらって、今年も行ったんですけれども、プラス、カナダの商工会議所の主催なんですけども、高校生とオンラインで交流って言うんですかね。
英語だけだったので何かハードだったという話を聞きますけれども、交流ができました。それは旭高校にいた職員がカナダに、教員辞めて語学留学をしている教員がいて、その教員を勝手にカナダ特派員と呼んで何かプログラムできないかということをずっと言っていたら、実際に今年できたというのがとてもよかったのかなと、ちょっと時間（時差あるため）がちょっとずれてて、入試の休みの最中の昼間に自宅でオンラインで交流してもらったりと、そういうのはどんどん広げられるのかな。コロナが終わって、また子供たちのニーズはあるんですけれども、姉妹校交流なんてのもいっとき、韓国の学校とやったりとかしていたんですけれども、立ち消えになってしまいまして、そういうのをまた復活させたりとか、その子供たちのニーズに合わせて、バスケットボールなんかも台湾の高校と交流をしていたんですね。だから今、なかなか今できないんですけれども、そういうような繋がりで何かこう実際に行ったり来たりしなくても、オンラインでそういう交流は十分できるというのは実証できたので、ぜひまた来年は一つ。そういう取り組みをしていきたいなというところがまず多くあります。
あとは今年 1 年間地域との連携というところで強化というか、いろいろなことをさせていただいて、実際、高校の実情というか現場というか、多分世の中では、中学校が部活動のそういう教員の負担を軽くするために地域との連携ということについて地域移行というのは、もう来年から始まってきます。

高校はどうなってるんだということを聞かれるんですけれども、ここはまだワンテンポ先なんですね。ただ、本校の部活動が盛んであったりとか、逆に特にはいるんだけど、指導者がいなかったというところもあるので、できれば来年の課題としてこの学校運営協議会の中で人材バンクみたいなのをつくって、そこに登録をするような形。
例えば今言ったカナダのオンラインで何かをやるときに英語に長けた地域の人がいて、その人たちがボランティアとか、または最低限の受益者担当の負担で学校に来て学べる。だから学習サロンに、旭高校の生徒が行っているような形が、地域の人たちが高校に来てくれて、何かやるというような仕組みができたら、子供たちにとってはとてもいいのかな。
それは例えば部活動で、実際にはバスケットボールやサッカーもそうなんですが、外部コーチが入って受益者負担でコーチもお金を払って保護者側の方に払って実際の指導はしているんですね。だから、そういうのもうまくなる学校の中でちゃんと把握して人材を確保した上でお願いするような形です。
ただ、お金的な部分がないので、そこの部分に関しては受益者負担というのが一番妥当なのかなと思うところもあるので、そういうのをちょっと来年協議していただいて、来年度中にはできたらいいなというのも少しありますので、一応そんな状況であるということで、今年のまとめというか、来年の課題というか、話をさせていただきました。
以上でございます。

教頭（桐谷）
一年間を振り返ってひとことずつご意見をいただきたいと思います。

会長（渡邉）
全体を通してなんですけども、いろんな先生方、委員の皆さんからお話あったとおり、本当に生徒が主体でどうしたらいいかということを考えるという場面がちらほら見られたのがとてもよかったなというふうに思っております。というのも、カナダの高校生と交流するときとか、事前のワークショップを英語の先生もいらっしゃるとは思うんですけど、ちょっとまた色んな他の部分も入れるということで、これ模擬授業で大学の先生の講師依頼をしてくださったりすると思うんですけど、そういう感じで「事前研修をやってくれませんか」と言っていただければ、うちも英語教員いっぱいいて、結構そういうのを、大好きな方たちも多いので、そういうところでも、ご協力させていただけそうだなというのをちょっと今聞いていて思いました。簡単でございますが、以上でございます。

市川
お話全部聴かせていただいて、子供の主体性を本当に大切にされている高校なんだ

なと理解していますし、私も良かったなというふうに思います。コロナ禍だから大きく広がっていったこととか、良くなってきた一気に進んだことというのがたくさんあると思いますので、そういった部分を活かしながら元に戻していくという部分を抱えながら、多分進んでいくとは思うんですけれども、一つ、ホームページを見直すというところ、実はこの行事の方も協議会に入っていますけれども、すごくHPがすごく重視さているというかフェイスブックやインスタグラムなどをどういうふうに活用していて、学生を集めていこうかとか、保護者に伝えていくかというのをずごく重視されていると思いますので、今後また課題をクリアしながら進めていただければなということと、生徒主体の説明会であったり、見学会これは確かに３年前から始められたような記憶があるんですけれども、これは僕の職業柄、中学生も周りに多いものですから話をきくと、旭高校の説明会を受けたところ、すごく感動したというのがあったのですごいやっぱりいい取り組みだなという風に感じました。これからどんどん選ばれていく高校になっていくと、私の子供も今度、中学２年生になるので、どきどきしながら過ごしています。ただ、旭高校ってほんとこれみんな生の声で言ってしまえば、本当、旭高校ってすごく何て言うんですか、「旭高校より良い高校にいくか」「旭高校か」というところのライン、これがリアルな声なんだなぁ思います。僕の周りに中学生がおおいので、やっぱり「瀬谷（高校）には行こう」となりがちで、それをどんどん魅力を発信して旭高校に入りたいという風になってほしいなと思います。

北瀬

はい。全体をとおしてということで、生徒が主役はとてもいい言葉だなって改めて思っております。私たちも地域が主役っていうので、あくまで職員は黒子であるっていうのをずっと言い続けてやっていて、それで生徒が主役で先生からはどちらかというと支援者というか黒子で表舞台には生徒が来るというのをいろんな場面で見させていただいて、これからもぜひ続けていただきたいなと思っております。

令和４年度は「学校連携」を、まず、最初に主軸に置いて今年度頑張ろうっていうことでやらせていただき、いろんな小学校中学校高校さんとさせていただいて、来年度は「子ども支援」ということで、子供にターゲットを子供って言っても高校生までなんですけど。高校生小学生っていうのも区役所からちょっとは気になることがありまして、上川井の方での子供の数っていうのは、都岡、川井、上川井で一番多いのが上川井（地域）なんですけれども、子供たちはどこに出ているか分からないっていうことで、実は貧困とか虐待ケースっていうのが多いっていうのが上川井、だっていうのが、聴こえてきていて、それに関して子供支援の方を来年度もやっていく中で、ネグレクトであったり、ダブルケアであったりっていうのを実際にしていらっしゃる。もしかしたら高校の生徒さんでもちょっといらっしゃるかもしれないというところも。今後関わらせていただきながら、また子供支援を来年度高校連携等もさせていただきたいと思いますの

でよろしくお願いします。

教頭

ではいただいた御意見を生かして。また来年度取り組んでいきたいと思います。